

令和元年度 第3回八王子市食育推進会議	
日時	令和2年1月23日(木) 13時30分～15時
場所	八王子市保健所 別館1階
出席者氏名	委員 浦野慎一、大村香織、河村智里、小池さとみ、佐藤咲、瀬々義之、土門陽子、内藤里美、橋本直樹、藤塚康子、星野厚子、松岡誠子、松本勉、峯尾誠、山本徹、米津元一
	事務局 原田美江子健康部長 松野健康増進担当課長、松浦主査、土井、山尾
欠席者氏名	なし
テーマ	(1) 第3期八王子市食育推進計画策定に係る市民意識調査の集計結果について (2) 第3期八王子市食育推進計画の方向性について
傍聴人	なし
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1：第3期 八王子市食育推進計画策定に係る市民意識調査について</li> <li>・資料2-1：第3期八王子市食育推進計画に係る市民意識調査集計結果（無作為抽出、一般）</li> <li>・資料2-2：第3期八王子市食育推進計画に係る市民意識調査集計結果（幼稚園児、保育園児、小学生）</li> <li>・資料2-3：第3期八王子市食育推進計画に係る市民意識調査集計結果（中学生、高校生）</li> <li>・資料3：第3回八王子市食育推進会議資料</li> <li>・第3回八王子市食育推進会議参考資料</li> </ul>
議事	
1. 開会	
発言者	内容
健康増進担当課長	<p>ただいまより、令和元年度第3回八王子市食育推進会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また、雨の降る寒いなかご出席をいただき、誠にありがとうございます。本会議は原則、公開となっております。また、会議録作成のため録音させていただきますので、ご了解ください。本日の傍聴人について確認いたします。</p>
事務局	<p>本日、傍聴を希望されている方はおりません。</p>
健康増進担当課長	<p>いらっしゃらないようですので、このまま進めます。 それでは、会議にあたりまして、健康部長（八王子市保健所長）の原田から、ご挨拶を申し上げます。</p>

健康部長	<p>本日は、雨の降るなか、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>前回の会議で検討した市民意識調査の結果が出てきております。事前に調査結果の生データを送付させていただいたところですが、データを見てみると様々な実態が浮かび上がってきています。</p> <p>委員の皆様が感じたことやご意見を、それぞれの立場でご発言いただき、教えていただきたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
健康増進担当課長	<p>ここから会議の進行を健康部長の原田にお願いしたいと思います。</p>
健康部長	<p>それでは、これより私の方で会議を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、事務局より配布資料の確認をいたします。事務局、お願いいたします。</p>
事務局	<p>不足している資料がありましたら、事務局までお声掛けください。</p>
健康部長	<p>それでは、これから議事を進めます。</p> <p>推進会議では皆様のご意見をいただきながら、進行してまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p>

## 2. 議事

### (1) 第3期八王子市食育推進計画策定に係る市民意識調査の集計結果について

発言者	内容
健康部長	<p>それでは、第3期八王子市食育推進計画策定に係る市民意識調査の集計結果について事務局より説明いたします。</p>
事務局	<p>資料1について説明します。</p> <p>まずは一般の無作為抽出の調査についてです。</p> <p>10月12日の台風19号の影響で当初より変更した部分があります。</p> <p>当初は2,000名対象でしたが、台風19号の被災地域を除く1,965名にアンケートを送付しました。</p> <p>調査期間についても、10月25日から11月8日に変更し、当初より1週間遅らせて実施しました。</p> <p>また、市内大学の学生さん200名にアンケート調査を実施しました。</p> <p>今回は、紙面での回答とは別に、一般の無作為抽出の調査についてはインターネット回答も導入しました。結果としましては、1,965人への配布に対して793人より回答を得ています。このうちインターネット回答は166人、紙面での回答が627人となっており、回収率は40.4%でした。前回調査では、</p>

回収率が43%でした。今回は、回答期限前にはがきで礼状督促を送っておりました。今回は予算の関連で送付できませんでした。このような状況でも、40.4%の回収率があり、多くの方にご協力いただくことができました。また、大学生も200人中86人から回答をいただき、大学生の回収率が43%となっております。

子どもの調査の方ですが、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校とそれぞれの委員さんの協力もあり、10月16日から11月1日の間で実施することができました。

回収数と回収率については、幼稚園で351の配布に対して261の回収で回収率が74.4%、保育園は317の配布に対して185の回収で回収率が58.4%、小学校では526の配布に対して405の回収で77%の回収率、中学校は419の配布に対して316の回収で75.4%の回収率、高校は412の配布に対して361の回収で87.6%の回収率となっております。

続きまして、資料3を説明いたします。資料2のデータを踏まえてまとめたものとなります。

(1) 食育への関心についてです。

①の「食育」という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っている」が最も多く60.3%となっております。前回調査と比較すると「言葉も意味も知らない」という回答が減少(8.0%→4.9%)しています。

②のいずれの調査においても「どちらといえば関心がある」が最も多く、次いで「関心がある」となっています。

年代が高くなるにつれて、「関心がある」割合が高くなっています。

保護者アンケートと市民アンケートの同年代(20代~40代)を比較すると、「関心がある」割合が保護者アンケートの方が高いことがわかります。

③の「食育」に関することで関心を持っていることについて、いずれの調査においても「心身の健康の維持・増進について」が最も多いです。次いで市民アンケートでは「生活習慣病の予防について」、「食品の安全性について」が多く、幼保小アンケートでは「食事のマナーについて」、「食品の安全性について」となっています。

④の食育について、市で重点的に取り組んでほしいことについてです。「学校・保育所・幼稚園などでの食育」が最も多く、次いで「食品の安全性の確保」、「地産地消の取り組み」となっています。前回調査と比較すると、「学校・保育所・幼稚園などでの食育」の割合が高くなっています。

(2) 食生活についてです。

⑤朝食を食べている人の割合についてです。

いずれの調査においても「ほぼ毎日(週に6~7日)食べている人が最も多

いです。しかし年代で見ると、幼稚園児・保育園児、小学生が最も多く、中学生、高校生から30代にかけて少なくなり、40代以降は多くなることがわかります。また、性別で見ると平成27年度意識調査と比較しても同様の結果となっています。しかし、10代～30代の世代では「ほとんど食べていない」という回答が他の世代より多く、性別で比較すると男性の方が少ないです。

生活習慣全体をみみると、やはり朝ごはんは生活習慣を整える要となる行動です。国でも朝ごはんについては大切にしており、早寝、早起き、朝ごはんを提唱しています。今回の調査では、朝ごはんの内容も聞いており、1品しか食べていない人が15.8%となっています。報告書については朝食の質にも着目していきたいと考えております。

⑥食事を誰と食べているかという点ですが、休日の夕食については、いずれの調査でも「家族全員と」が最も多く、次いで「家族の誰かと」が多くなっています。

また、平日・休日すべて「ひとりで」と回答した割合を見ると、10代・20代及び50代以上が他の世代より多く、性別で比較すると男性の方が多いことがわかります。このような現状ですので、地域食堂や子ども食堂についてもご意見をいただきたいと思っております。

⑦外食の利用についてです。

幼・保、小の保護者及び10代～30代までは「週に1日程度」が最も多いです。年代が高くなるにつれて、「ほとんど利用しない」が多くなる傾向がわかります。

⑧の冷凍食品の利用頻度についてです。いずれの調査においても「ほとんど利用しない」が最も多く、次いで「週に1日程度」が多くなっています。

(3) 情報の入手手段についてです。

市民アンケートについては、50代以降は「テレビやラジオ」が最も多く、「新聞・書籍・雑誌など」も多くなっています。10代、20代は「SNS」が多く、20代～40代は「インターネット」も多くなっています。

また、中高生のアンケートについては、「インターネット」が最も多く、中学生は次いで「テレビやラジオ」、「家族、友人」となっており、高校生は次いで「SNS」、「テレビやラジオ」となっています。

続いて2. 第2期八王子市食育推進計画最終評価（仮）についてです。

朝食を「ほぼ毎日（週に6～7日）食べている人の割合についてです。幼稚園、保育園については、平成27年度の結果から微減しております。中学生については増加しておりますが、高校生、市民については下がっており目標値には手が届かない状況です。

次に食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする子どもの割合ですが、目標値には届かないものの前回の平成27年の調査より増加しております。

次に八王子産の農作物を意識して購入している人の割合については、平成27年調査より減少しております。

今回の調査結果を第2期計画の最終評価とする予定でおります。

次期計画に向けて、朝食の摂食率の部分です。国や都でも朝食について調査をしておりますが、国や都は欠食率で示しています。八王子市でも欠食率としていくか、摂食率としていくか検討したい部分となります。

次に3. 市民意識調査から見える現状と課題についてです。

食育活動の内容に合わせて分類しております。

幼稚園児、保育園児では、食生活において「好き嫌が多い」「野菜を食べる量が少ない」「ながら食べ・遊び食べが多い」の割合が高いです。小学生の食生活において「好き嫌が多い」「野菜を食べる量が少ない」の割合が高くなっております。

中学生が食事を選択する際に「食べたいもの」「値段」を挙げる割合が高く、高校生も同様に食事を選択する際に「食べたいもの」「値段」を挙げる割合が高くなっております。

青年期になりますと、意識して主食・主菜・副菜をそろえてとる割合が低い、塩分のとりすぎに注意する割合が低く前回調査と比較しても低くなっている、八王子産の農産物に関心がない割合が高い、食品購入時に気をつけていることがない割合が高い、市の取組みを知らない割合が高い状況が浮かび上がってきています。

壮年期では、男性のBMI25.0以上の割合が高くなっており、体型の変化を感じている様子が受け取れます。

中年期については、食品の安全性への関心が高く、市に重点的に取組んでほしい項目として「地産地消の取り組み」を挙げる割合が高い状況になっています。

高齢期については、生活習慣病予防への関心が高い、食品の安全性への関心が高い、食品購入時に食品添加物・食材の産地を意識する割合が高い状況であり、健康に対する意識が上がり、健康的な食行動につながっているのではないかと思います。

	<p>食の安全・安心については、食品購入時に食品添加物・食材の産地を意識する割合が高いです。</p> <p>食文化の伝承については、食文化の伝承が必要だと感じる割合が高いのに対して、食文化の伝承を実践している割合が必要だと感じる割合と比較すると低い状況です。食文化に対して意識はあるものの行動にたどりついていない人が多い状況です。</p> <p>地元の農産物を活用した交流・体験については、八王子産の農産物を購入している割合が低く、八王子産の農産物に関心がない割合が高い状況です。</p> <p>食の循環の理解・促進について「食品ロス」の削減への関心が高い状況です。メディアでも恵方巻の食品ロスについて大々的に報道され注目されています。一方で八王子市は食品ロスが少ないというデータもあり、食品ロスへの意識が高いことが分かります。</p> <p>食に関する環境の整備では、市の取組みを知らない割合が高く、我々ももっと周知に力を入れる必要性を感じております。</p> <p>また、市に重点的に取組んでほしい項目として「健康に配慮した飲食店・惣菜店の紹介」を挙げる割合が高く、峯尾委員や小池委員にもご協力いただいている「はちおうじ健康応援店」を活用していくことが必要だと考えております。</p> <p>食育を推進する人材の育成について、地域の食育活動に参加している割合が低く、前回調査では関心が高かった部分ではありますが、なかなか参加はできていない状況です。この項目も周知につながる部分があると考えております。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>健康部長</p>	<p>何かお気づきの点やご意見がありましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>朝食の欠食率についてです。</p> <p>私の家族のことですが、平日は朝食を食べていますが、仕事のない休日は睡眠を優先してしまい、朝食を食べていません。決して朝食を食べていない状況ではなく、アンケートの項目で言うと「週4~5日食べている」状況となります。このような状況の人も多いと思うので、摂取率ではなく欠食率でデータを見ても良いのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>保育園の朝食の様子は、10~15年前は朝食を登園後に食べさせることもありましたが、今はそういったことはなくなりました。保護者の意識が変わって</p>

	きたのだと思います。やはり、知識や情報を得ると、保護者は子どものために一生懸命やろうとします。ですので、子どもには朝食を食べさせるが、保護者は朝食を食べる時間がないのではないのでしょうか。
委員	幼稚園でも、朝食を食べていない子どもは少ないです。朝食を食べない子どもは午前の活動に集中できていません。そのような場合は、ご家庭に電話をかけて話をすることもあります。
事務局	朝食は生活リズムが関係しています。先日、大学の先生と話をする機会があり、実態として学生さんは寝る時間が遅いため、お昼過ぎに起床することがあるようです。お昼過ぎに起きてしまうと、朝ごはんが朝ごはんにならない現状があるとおっしゃっていました。加えて夜はバイトをし、帰ってきてから課題をすると寝るのが深夜3時になり、朝起きることができない悪循環になってしまいます。ライフサイクルを正すことが朝食の摂取につながると思います。また、食べる人を100%にする方向で見ていくのか、食べない人を減らすのかでアプローチが変わってきます。その辺のご意見をいただきたいと思います。
委員	食習慣を変えるためには生活習慣を見直す必要があると思います。また、正しい知識を知っていないと行動につながらないですし、知識を知っていても行動に移すことが難しい場合も多いと思います。
委員	調理能力も関係するのではないのでしょうか。朝作るのが面倒な場合でも簡単な調理ができれば変わってくるのかと思います。70代でさえ、朝食を食べていない方がいることは驚きです。また、子どもがいても朝食を作れない家庭においては、保護者が作らなくても食べられる環境を整えることが大切ではないのでしょうか。子どもたちが何も食べない状況を減らしたいですね。
委員	私には6歳の子どもがおりますが、4～5歳のころに「赤色を食べると筋肉になる」と話してくれました。保育園で3色食品群を教えており、知識が身につけていました。昔は保育園で教えていなかったことですが、最近になって保育園での食育もすすんできたと感じています。これが食育の流行なのだと思います。時代に合わせた食育を進めていく必要があるのではないのでしょうか。震災のあったころは放射能についてメディアで取り上げられることも多く、最近では食品ロスについてとり上げられています。時代に合わせて、この会議で検討してテーマを決め、それぞれの立場で市民に発信していくとより効果的な周知につながると思います。
委員	小中学校の朝食摂取率については、対象の学校が前回と異なるため、単純に

	<p>比較せず、ある程度は誤差と考えたほうが良いかと思います。</p> <p>また、現在の中学生は大変忙しく、部活に8~9割の生徒が加入しています。朝練のある場合ですと、6時半から7時の間に家を出ます。朝早く起きのため食欲がないことも多いのではないのでしょうか。また、子どもたちの朝食を聞いてみると2/3は主食を食べているのに対し、1/3はヨーグルトやシリアルドーナツでした。保護者は朝食を食べさせることについては知識がある人が増えてきていますが、朝食の内容や質については伝えていく必要があるかと思っています。</p> <p>また、平成27年と比較すると共働き世帯が増えている状況で、冷凍食品や外食、中食を悪者としてしまうのは保護者に気持ちの面でも負担がかかることから、調査の結果をどのように読み取るかを検討する必要があるのではないのでしょうか。共働きが増えるなどの社会状況の変化も考慮する必要があります。</p>
委員	<p>今おっしゃっていたように、共働きが増えるなかで、外食や中食を悪者にするのではなく、うまく活用する方法を伝えていく必要があるかと思っています。</p> <p>子どもの朝食欠食とともに、保護者の朝食欠食についても気になります。</p> <p>私自身保育園児と小学生の3児の母であり、毎日朝は戦場です。時間までに子どもたちのことをしなければいけない、自分自身の出勤時間もあるなかで、気が付くと朝ごはんはコーヒーのみということもあります。だからこそ、中食や冷凍食品をうまく活用することも方法の1つだと思います。子育てと仕事に追われている保護者にどのように情報を発信していくか、保育園や小学校からの情報発信は有効だと思います。</p> <p>また、大学においても学生が朝食を食べられる環境を整えており、100円で朝食を提供しています。先ほど生活習慣と朝食の話がありましたが、アスリーの大学生であっても夜遅くまで起きており、朝食を食べられない学生がいます。朝食を食べないことで栄養摂取だけでなく生活リズムも崩れるので、朝食と生活リズムの両輪で考えていくことが必要になってくるかと思っています。</p>
委員	<p>食品ロスについてです。スーパーマーケットによっては時間帯によって割引かれることが多いかと思っています。以前はできるだけ新鮮な商品を購入したかったため割引商品は購入していませんでした。先日スーパーで『すぐ食べるなら環境を救うためにもこちらを』という趣旨の表示が記載された割引商品がありました。環境を救うためになるということから、できたてのものではなく、できてから少し時間の経った商品を気持ちよく、手に取ることができました。少しの表示の工夫で、市民の意識や行動変容につながるのではないかと感じました。食品ロスについて意識することで、食育の観点のみでなく環境問題として考えていくことも大切だと感じています。</p>

事務局	<p>意識調査の外出、中食に関する設問については、利用を否定するのではなく、実態を把握したうえで、時短や食環境の視点で検討するため設問しました。冷凍食品やレトルト食品の種類、減塩商品が多くなっている中でもあります。調査結果が時短についての裏付けとなればと考えています。また、中学生の調査でも、何が冷凍食品なのか把握して回答しており、中学生なりに冷凍食品の活用に理解があるのだと思います。</p>
委員	<p>冷凍食品や中食の活用がここまで少ないのは驚きです。 現在の冷凍食品は昔のイメージはなく、電子レンジで温めるだけの簡単な商品がほとんどです。うまく活用してもらえれば、家庭の手助けになると思います。 外出の利用頻度の設問についてです。週に1回程度、家族で利用するのであれば、家族のコミュニケーションの場になると思います。外出の場を活用して食育を進めていくのも効果的ではないでしょうか。</p>
委員	<p>みなさん、ご意見をありがとうございました。 いただいた意見をもとに、意識調査の報告書について事務局で検討していきます。</p>

(2) 第3期八王子市食育推進計画の方向性について

発言者	内容
健康部長	<p>それでは、次の議事に移ります。第3期八王子市食育推進計画の方向性について、事務局より説明していただきます。</p>
事務局	<p>資料2、資料3をもとに説明いたします。 資料3の第3回八王子市食育推進会議資料の10ページの4.市民意識調査から見える現状と課題②についてご覧ください。 市民意識調査結果からの現状と課題について9つにテーマに分けて説明いたします。まず一つ目の朝食については幼稚園児・保育園児、小学生の朝食摂取率は、現計画の最終目標値(100%)には達していないが、かなり高い水準で推移しています。しかし、中学生、高校生、大学生と年齢が上がるにつれて、徐々に朝食の摂取率は下がり、この傾向は30代まで続き、40代以降は上昇する結果でした。また、先述のとおり幼稚園児・保育園児、小学生は高いものの、その保護者の朝食摂取率は子どもと全国的には小・中学生の朝食摂取率は低下しています。二つ目の共食については幼年期から少年期初期にかけては、共食の割合は高くなっています。しかし、少年期後期から青年期と年齢が高くなるにつれて共食の割合は低くなる傾向でした。 壮年期以降は、ライフスタイルの多様化とともに、孤食の割合は一定数いるが、高年期以降、平日の朝食、昼食、夕食及び休日の朝食、昼食、夕食全てひとりで食べていると回答した男性の割合が高い結果となりました。三つ目に食環境整備で</p>

は幼年期、少年期の保護者や青年期、壮年期にかけては外食、中食、冷凍食品を利用する割合が高く、前回調査と比較しても、割合が高まっています。また、市に重点的に取組んでほしい項目として、「健康に配慮した飲食店・惣菜店の紹介」を挙げる割合が高い傾向がありました。四つ目の情報入手経路に関しては青年期ではSNS、インターネットの割合が高く、壮年期はインターネットの割合が高い結果でした。また、中年期はテレビの割合が高く、高年期はテレビ、新聞の割合が高い数値となっています。五つ目の食文化の伝承に関しては食文化の伝承が必要だと感じている割合は高かったが、伝承を行っている割合は低い結果となりました。また、市に重点的に取組んでほしい項目として「学校・保育所・幼稚園などでの食育」を挙げる割合が高く、保護者が子どもに伝えていきたいこととして「食事のマナー」を挙げる割合が高い傾向があります。

六つ目の生活習慣病予防では少年期後期から青年期にかけて食事を選択する際に「食べたいもの」「値段」を挙げる割合が高く、食品購入時に「気をつけていることがない」割合が高かった。同時に、「主食・主菜・副菜をそろえてとる」「塩分のとりすぎに注意する」割合が低く、壮年期には、上記の割合が上昇するが、男性のBMI値25.0以上が高い割合でした。高年期は、生活習慣病予防への関心が高く、中年期以降は食生活に気をつけている割合が高い結果でした。七つ目の地産地消の現状では八王子産の農産物を購入している割合が低く、八王子産の農産物に関心がない割合が高かった。しかし、市に重点的に取組んでほしい項目として「地産地消の取組み」を挙げる割合がやや高い結果となりました。次に八つ目の食育の関心については年齢が上がるにつれ、食育の関心がある割合が高くなりました。また、保護者は同年代の調査と比較すると食育の関心がある割合が高い結果となりました。食育の関心の高さと比較すると、食育の実践をしている割合は低かった。九つ目の食品ロスの削減では食品ロスの削減への関心がある割合が高く、取組みを行っている割合が高かった。以上のことが市民意識調査から見てきた現状と課題となります。

続いて11ページをご覧ください。5. 第3期八王子市食育推進計画の方向性についてお伝えいたします。

まず、将来像の案としては第1期・第2期八王子市食育推進計画と同様に「食を大切にする人々を育むまち」で考えております。基本目標についても第1期・第2期八王子食育推進計画と同様に①望ましい食生活を送る。②食の基本的な知識、マナー、スキルを身につける。③食を通じて、家族、地域、自然とつながる。この3つの目標で検討しております。さらに今回のアンケート結果からキーワードを取り上げました。生活スタイルが多様化していることからライフステージにより着目し、ライフステージごとの重点目標の設定を行うことその他、無関心層へのアプローチ、給食センターを核に地域で行う食育活動、共食の推進、生活習慣病予防、食品ロスの削減、朝食欠食率、SNSの活用、フレイル予防、SDGsなどを重点的に行っていく方向で考えております。最近では保育園、学校等で食育活動を積極的に進めてい

	<p>るところではあるが、家庭でも食育を進めていけるような支援ができればと考えています。</p> <p>先日、農林水産省の第2回食育推進評価専門委員会に参加させていただきました。会議の中で第4次食育推進基本計画作成に向けた課題検討について取り上げており、アンケート結果の中で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の認識について問う質問がありました。質問内容は「ミートソーススパゲティとコールスローサラダは主食・主菜・副菜を組み合わせた食事だと思いませんか」で、アンケート結果では主食・主菜・副菜がそろっていると回答した割合が23.1%でそろっていないと回答した割合が77.0%という結果でした。この結果から主食・主菜・副菜がそろっているのにそろっていないと誤ってしまっている市民が7割以上いることがわかります。和食型（一汁三菜）の食事では9割以上の方が主食・主菜・副菜がそろっていると回答しています。このような市民の認識のずれを把握し、見直していくことが大事だと実感しました。個人一人ひとりが正しい知識を持って自発的かつ継続的に食への関心を高め、食の選択ができるような仕組みづくりが必要であると感じております。アンケート結果からの現状と課題についてご報告いたしました。普段、みなさまが食育活動等の現場で感じていることやご意見を頂戴できればと思います。</p>
健康部長	<p>事務局の説明が終わりました。みなさまから、ご意見、ご質問がございましたら、よろしくお願いたします。</p>
委員	<p>前々から地産地消について取り組んでいることや道の駅や直売所ができて地産地消が浸透したのではないかと感じていましたが、アンケートの結果をみると浸透していないことがわかりました。一定の人だけが興味があり、全体に広がっていないのではないかと感じます。農協と一緒に進むなど地産地消を普及していく必要があると思います。</p>
委員	<p>高齢者のリハビリテーションの観点から孤食の高齢男性が多いと感じます。高齢者男性の孤食の現場での印象についてですが、食べ物へのアクセスが難しい現状がみられます。買い物に行けずに週末に家族とまとめて購入する、コープを利用するなど買い物へのアクセスがなくなり、外出する機会の減少が課題とされます。食べ物をどう手に入れるかという視点も必要かと思えます。</p>
委員	<p>ライフスタイルが多様化し共働きが増えてきているが、食を軽視せず、朝食を作ることが大変であるならば夕食時に朝食を考えて作るなど工夫し、食べることは基本なので大切にしてもらいたいと思います。</p>
委員	<p>朝ごはんを食べられない人は他の食事でバランスよく食べられていれば問題ないという考えもありますが、自身は毎日朝食をとっています。年齢によって食事の質も高まっていると感じました。八王子市は高血圧が高いと伺っていたので、トランス脂</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>脂肪酸が高血圧に影響するのでそういうところももう少し見ていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>大学生の視点からの意見として食への意識はあるが行動に移せない人が多いと思います。知識があっても行動に起こせない理由としてお金に余裕がない、食への優先順位が低いと考えられます。食の情報を入手することは電子媒体が多いが、SNS では自分の興味がある情報しか入ってこないため食に関心がないと情報が入ってこないと思います。興味があるものとリンク付けしたらよいと思います。</p> <p>地産地消に関してですが、スーパーで八王子産を表示しているところもあるが、表示がないスーパーもあると思います。道の駅等に行く機会が少ないと思うのでスーパーでもっと八王子産の商品を目立つように置いてはどうかと思います。八王子の直売所マップをもっと広く周知した方がよいと思います。</p> <p>食育は子どもから大人までにかかわることだと思うので認知度は上がってきているとは思いますが、もっと広めていく必要があると感じております。</p> <p>みなさんご意見をありがとうございます。地産地消に関してはまずなぜ地産地消が必要なのか、なぜ良いのかがわからないと手にとらないと考えられるため本質的なところから検討していきたいと考えております。</p> <p>近年さらに生活スタイルの多様化が進んでいることからそれぞれの年代にあったアプローチ方法でより有効的に事業を展開していきたいと思います。将来像は変えず、キーワードや八王子の良さ、八王子らしさを取り入れながら各施策の展開を図っていきたいと考えております。</p>
<p>3. 連絡事項</p>	
<p>発言者</p>	<p>内容</p>
<p>健康部長</p> <p>事務局</p>	<p>それでは次第、3 連絡事項に移ります。委員のみなさまより連絡事項など、ございますか。</p> <p>連絡事項がないようなので、次回の開催日程についてご連絡いたします。</p> <p>次回の会議は3月19日(木)14:30より開催いたします。場所は保健所別館で行います。</p>
<p>4. 閉会</p>	
<p>発言者</p>	<p>内容</p>
<p>健康部長</p>	<p>本日は、皆様、御出席いただき、ありがとうございました。</p> <p>次回の会議は、議題を「市民意識調査結果の報告書」と「第三期八王子市食育推進計画の骨子」について検討させていただきます。</p> <p>閉会</p>